

情勢報告資料

令和4年産に向けた水田農業の取組方針(抜粋)

- － 地域の水田を守るために、需要に応じた生産を進めましょう －

農林水産省農産局企画課

水田農業対策室

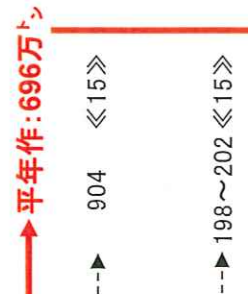
令和4年5月

令和3/4年及び令和4/5年の主食用米等の需給見通し(令和4年3月公表 基本指針)

【令和3/4年の主食用米等の需給見通し】

令和2年産米の15万トンについてコロナ影響緩和と特別対策(特別枠)に取り組む場合の見通し

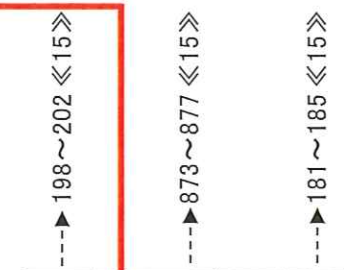
	(単位:万トン)
令和3年6月末民間在庫量	A 218
令和3年産主食用米等生産量	B 701
令和3/4年主食用米等供給量計	C=A+B 919
令和3/4年主食用米等需要量	D 702 ~ 706
令和4年6月末民間在庫量	E=C-D 213 ~ 217



【令和4/5年の主食用米等の需給見通し】

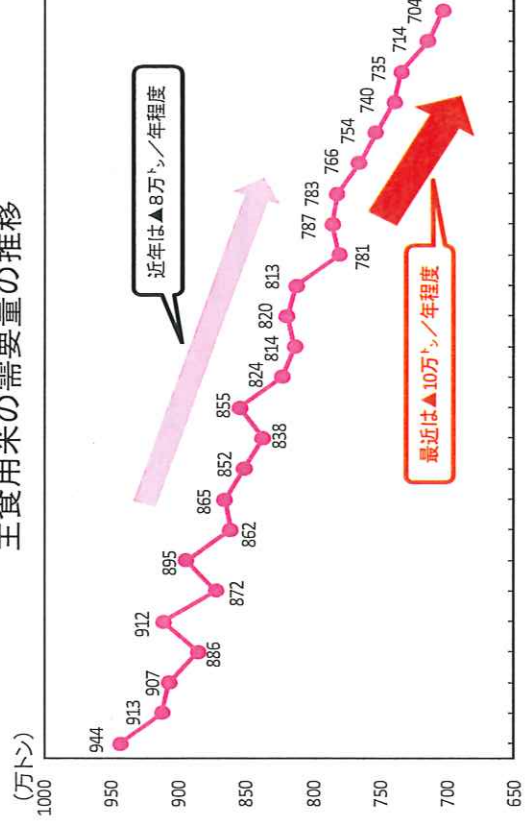
	(単位:万トン)
令和4年6月末民間在庫量	E 213 ~ 217
令和4年産主食用米等生産量	F 675
令和4/5年主食用米等供給量計	G=E+F 888 ~ 892
令和4/5年主食用米等需要量	H 692
令和5年6月末民間在庫量	I=G-H 196 ~ 200

▲21万トン (▲3.9万ha)

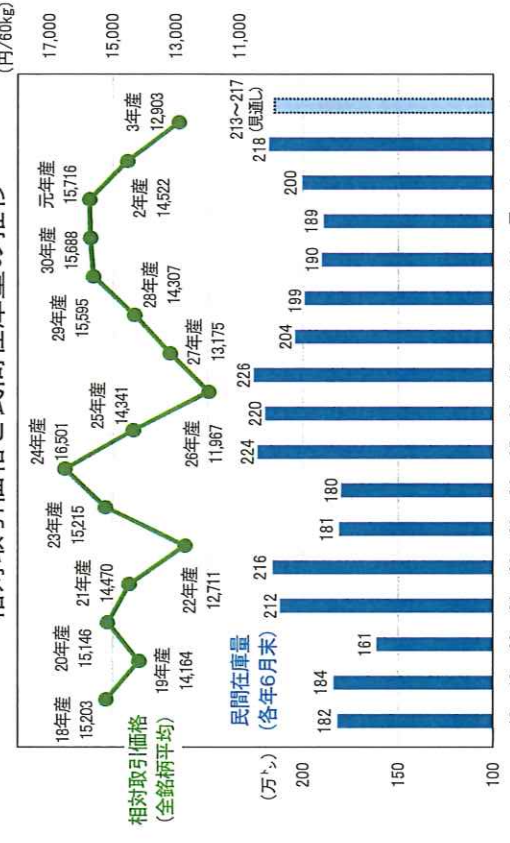


注1: 欄外の記載は、令和2年産米の15万トンについて、コロナ影響緩和と特別対策(特別枠)に取り組む場合の見通し。
 注2: 主食用米等需要量は、新型コロナウイルス感染症の状況や価格動向、コロナ影響緩和と特別対策(特別枠)の販売・提供動向等によって、今後、変動する可能性がある。
 注3: ラウンドの関係で計と内訳が一致しない場合がある。

主食用米の需要量の推移



相対取引価格と民間在庫量の推移



注: 相対取引価格は、当該年産の出回りから翌年10月(3年産は令和4年3月)までの通年平均価格であり、運賃、包装代、消費税相当額が含まれている(2年産、3年産は速報値)。

米の令和3/4年の需要量の見直し

【米の販売動向調査の追加調査結果】

- 令和3年7月～4年1月の販売動向について調査した結果、前年の同期間に比べ1.21%増加。
- この結果を基に、11月の基本指針と同様に令和3/4の需要量を算出すると約7万トンの増加が見込まれる。
- 一方で、12月以降の新型コロナウイルス感染症の拡大によるの影響等、先行きが不透明なこと等を踏まえ、11月に設定した**令和3/4年の需要見直しについては、変更を行わず「702～706万トン」とする。**

【11月の基本指針における令和3/4年の需要量の見直し】

- ・ 令和3年7月～10月の米の販売動向調査結果（10月は見込値）によると、この期間の販売量は前年の同期間に比べ0.65%増加。

○ 令和3年7月～10月の販売動向調査結果
(単位:千トン)

	令和2年 7月～10月 ①	令和3年 7月～10月 ②	増減率 ②/①-1
販売量	1,332	1,341	+0.65%

- ・ 令和2/3年の市場流通見込み（565万トン）における販売量が0.65%増加すると仮定すると**需要量は約4万トン増加**する見込み。
- ・ 令和3/4年主食用米等需要量の見直しは、トレンド等から算出した需要量702万トンから、販売動向調査による需要増加量の約4万トンを加えた**706万トン**と幅をもって**「702～706万トン」**と設定。

【米の販売動向調査の追加調査結果】

- ・ 米の販売動向調査について、令和3年10月～4年1月を追加調査したところ、令和3年7月～4年1月の販売量は前年の同期間に比べ1.21%増加。

○ 令和3年7月～4年1月の販売動向調査結果
(単位:千トン)

	令和2年度 7月～1月 ①	令和3年度 7月～1月 ②	増減率 ②/①-1
販売量	2,273	2,300	+1.21%

- ・ 11月の基本指針と同様の手法で需要量の算出すると**約7万トン増加**する見込み。
- ・ この増加分を考慮して令和3/4年の主食用米等需要量の見直しを設定すると、**「702～709万トン」**

【概念図】

生産量：723万トン
市場流通量 565万トン
農家消費等 158万トン

○ 米の販売動向調査対象者
：年間取扱数量4,000
ト以上の卸売業者238社

○ 調査対象者の年間取扱数量
：令和2/3年；402万ト

○ 令和3/4年の主食用米等の需給見直し

(単位:万トン)

	E	F	G=E+F	H	I=G-H
令和3年6月末民間在庫量	218				
令和3年産主食用米等生産量		701			
令和3/4年主食用米等供給量計			919		
令和3/4年主食用米等需要量				702～706	
令和4年6月末民間在庫量					213～217

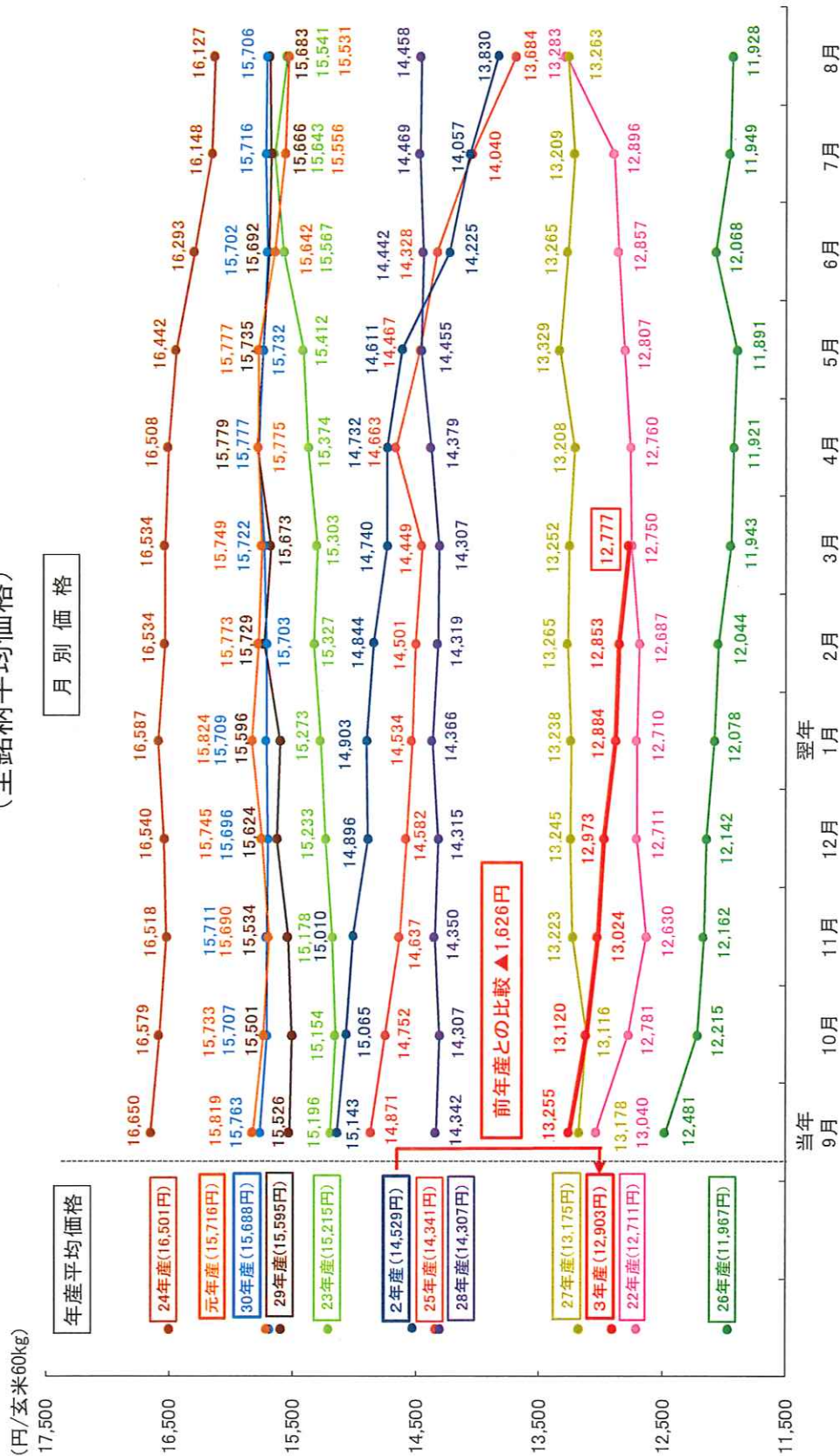
注：主食用米等需要量は、新型コロナウイルス感染症の状況や価格動向、コロナ影響緩和特別対策（特別枠）の販売・提供動向等によって、今後、変動する可能性がある。

令和3/4年の需要見直しは、新型コロナウイルス感染症の拡大による影響等により、先行きが不透明なこと等から、昨年11月に米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針において定めた「702～706万トン」から変更を行わない。

相対取引価格の推移(平成22年度～令和3年度)

○ 令和3年度米の令和4年3月の相対取引価格は、全銘柄平均で前月差▲76円の12,777円の12,777円/60kgとなり、出回りからの年産平均価格は前年産▲1,626円の12,903円/60kgとなったところ。

相対取引価格の推移 (税込)
(全銘柄平均価格)



資料：農林水産省調べ
注1：運賃、包装代、消費税相当額(平成26年3月までは5%、元年9月までは8%、元年10月以降は10%、ただし軽減税率対象は8%)を含む1等米の価格である。
注2：グラフの左側は各年産の通年平均価格(当該年産の出回りから翌年10月(3年産は令和4年3月)まで、3年産は速報値)、右側は月ごとの価格の推移。

令和3年産米の相対取引価格(令和4年3月までの年産平均価格)

(単位:円/玄米60kg (税込))

産地品種銘柄	令和3年産 〔出回り〜 4年3月〕	令和2年産 〔出回り〜 3年10月〕	価格差 ①-②
	①	②	
北海道 ねむつぼし	12,768	14,382	▲ 1,614
北海道 ゆめめがね	16,098	16,945	▲ 847
北海道 きら397	12,361	13,379	▲ 1,018
青森 ましぐら	10,881	12,677	▲ 1,796
青森 つかのま	11,400	13,374	▲ 1,974
岩手 ひとめぼれ	12,138	14,381	▲ 2,243
岩手 あきたこまち	11,914	13,323	▲ 1,409
岩手 銀河のしずく	13,559	15,319	▲ 1,760
宮城 ひとめぼれ	12,866	14,094	▲ 1,228
宮城 つや姫	12,789	14,466	▲ 1,677
宮城 ササニシキ	12,498	13,748	▲ 1,250
宮城 あきたこまち	12,904	14,453	▲ 1,549
秋田 めんこいな	11,872	13,096	▲ 1,224
秋田 ひとめぼれ	11,750	13,280	▲ 1,530
山形 はえぬき	12,096	13,968	▲ 1,872
山形 つや姫	18,471	18,537	▲ 66
山形 雪若丸	12,975	-	-
福島 コシヒカリ(中通り)	11,038	13,245	▲ 2,207
福島 コシヒカリ(会津)	14,171	14,929	▲ 758
福島 コシヒカリ(浜通り)	11,740	13,720	▲ 1,980
福島 ひとめぼれ	11,193	13,081	▲ 1,888
福島 天のつば	11,275	12,429	▲ 1,154
茨城 コシヒカリ	11,470	13,324	▲ 1,854
茨城 あきたこまち	11,305	13,564	▲ 2,259
茨城 あさひの夢	12,090	12,737	▲ 647
栃木 コシヒカリ	12,091	13,665	▲ 1,574
栃木 あさひの夢	11,238	12,507	▲ 1,269
栃木 とちぎの星	10,648	12,164	▲ 1,516
群馬 あさひの夢	10,662	12,387	▲ 1,725
群馬 ゆめまつり	10,571	12,024	▲ 1,453
埼玉 彩のかがやき	10,805	11,797	▲ 992
埼玉 彩のきずな	10,941	11,986	▲ 1,045
埼玉 コシヒカリ	11,131	12,490	▲ 1,359
千葉 コシヒカリ	11,469	13,523	▲ 2,054
千葉 ふさごがね	10,205	13,086	▲ 2,881
千葉 ふさごめ	10,660	13,364	▲ 2,704
山梨 コシヒカリ	17,771	18,259	▲ 488
長野 コシヒカリ	13,892	14,964	▲ 1,072
長野 あきたこまち	13,464	14,871	▲ 1,407
静岡 コシヒカリ	14,436	15,531	▲ 1,095
静岡 きぬむすめ	12,770	14,776	▲ 2,006
静岡 あいちのかおり	13,162	14,726	▲ 1,564
新潟 コシヒカリ(一般)	15,621	16,490	▲ 869
新潟 コシヒカリ(魚沼)	20,355	20,336	+ 19
新潟 コシヒカリ(佐渡)	16,173	17,072	▲ 899
新潟 コシヒカリ(岩船)	16,053	16,969	▲ 916
新潟 こしいぶき	12,662	14,297	▲ 1,635
富山 コシヒカリ	13,768	15,452	▲ 1,684
富山 てんたか	12,411	14,462	▲ 2,051
石川 コシヒカリ	13,139	14,596	▲ 1,457
石川 ゆめみづほ	11,483	13,743	▲ 2,260
福井 コシヒカリ	11,558	15,602	▲ 4,044
福井 ハナエササキ	13,253	14,365	▲ 1,112
福井 あきたこまち	11,626	14,215	▲ 2,589
岐阜 ハツモ	13,201	14,943	▲ 1,742
岐阜 コシヒカリ	14,142	15,250	▲ 1,108
岐阜 あさひの夢	-	13,573	-
愛知 あいちのかおり	12,105	13,685	▲ 1,580
愛知 大地の風	11,472	14,024	▲ 2,552
三重 コシヒカリ(一般)	12,499	14,861	▲ 2,362
三重 コシヒカリ(伊賀)	13,221	15,361	▲ 2,140
三重 千代ヒカリ	10,954	13,960	▲ 3,006
滋賀 コシヒカリ	13,626	15,258	▲ 1,632
滋賀 千代ヒカリ	11,724	14,202	▲ 2,478
滋賀 みずかみ	13,298	15,117	▲ 1,819
京都 千代ヒカリ	13,732	15,763	▲ 2,031
京都 千代ヒカリ	12,071	14,817	▲ 2,746
京都 ヒノヒカリ	15,575	16,212	▲ 637
兵庫 コシヒカリ	13,870	15,434	▲ 1,564
兵庫 ヒノヒカリ	11,674	13,804	▲ 2,130
兵庫 千代ヒカリ	11,762	13,976	▲ 2,214
奈良 ヒノヒカリ	12,669	14,630	▲ 1,961
鳥取 きぬむすめ	12,114	14,230	▲ 2,116
鳥取 コシヒカリ	12,887	14,947	▲ 2,060
鳥取 ひとめぼれ	12,198	13,978	▲ 1,780
島根 コシヒカリ	13,731	15,397	▲ 1,666
島根 きぬむすめ	12,489	14,500	▲ 2,011
島根 つや姫	13,399	15,234	▲ 1,835
岡山 アラモ	10,590	13,238	▲ 2,648
岡山 コシヒカリ	12,903	14,529	▲ 1,626
岡山 産地品種銘柄	令和3年産 〔出回り〜 4年3月〕	令和2年産 〔出回り〜 3年10月〕	価格差 ①-②
岡山 コシヒカリ	12,566	-	-
岡山 きぬむすめ	11,532	14,452	▲ 2,920
広島 コシヒカリ	13,521	14,965	▲ 1,444
広島 あきたこまち	12,746	13,988	▲ 1,242
広島 あきまき	12,802	14,146	▲ 1,344
山口 コシヒカリ	13,209	15,215	▲ 2,006
山口 ひとめぼれ	12,112	14,484	▲ 2,372
山口 ヒノヒカリ	11,832	14,413	▲ 2,581
徳島 コシヒカリ	12,251	14,947	▲ 2,696
徳島 あきたこまち	11,021	12,059	▲ 1,038
香川 コシヒカリ	13,386	15,406	▲ 2,020
香川 ヒノヒカリ	12,544	14,866	▲ 2,322
香川 おいでまい	13,269	15,406	▲ 2,137
愛媛 コシヒカリ	14,205	15,456	▲ 1,251
愛媛 ヒノヒカリ	13,703	14,837	▲ 1,134
愛媛 あきたこまち	13,594	14,775	▲ 1,181
高知 コシヒカリ	13,564	15,530	▲ 1,966
高知 ヒノヒカリ	13,062	14,436	▲ 1,374
福岡 夢つくし	14,736	16,322	▲ 1,586
福岡 ヒノヒカリ	13,124	15,430	▲ 2,306
福岡 元気つくし	14,585	16,169	▲ 1,584
佐賀 夢しずく	13,308	14,453	▲ 1,145
佐賀 おひめり	14,058	15,106	▲ 1,048
佐賀 ヒノヒカリ	11,910	14,266	▲ 2,356
長崎 ヒノヒカリ	13,781	14,802	▲ 1,021
長崎 にこまる	14,079	15,090	▲ 1,011
長崎 コシヒカリ	15,001	15,891	▲ 890
熊本 ヒノヒカリ	13,404	15,410	▲ 2,006
熊本 森のたまご	13,563	15,056	▲ 1,493
熊本 コシヒカリ	14,961	16,257	▲ 1,296
大分 ヒノヒカリ	13,133	15,335	▲ 2,202
大分 ひとめぼれ	13,890	15,258	▲ 1,368
大分 つや姫	14,028	15,391	▲ 1,363
宮崎 コシヒカリ	14,135	15,292	▲ 1,157
宮崎 ヒノヒカリ	15,471	15,960	▲ 489
鹿児島 ヒノヒカリ	13,708	16,595	▲ 2,887
鹿児島 あきたこまち	14,695	17,073	▲ 2,378
鹿児島 コシヒカリ	14,702	16,323	▲ 1,621
鹿児島 全銘柄平均価格	12,903	14,529	▲ 1,626

注1:農林水産省が調査・公表した出回りからの年産平均価格(令和3年産)の価格である。なお、令和元年10月以降は、軽減税率の対象である米穀の包装代などの品代等は8%、運賃等は10%で算定している。

注2:運賃、包装代、消費税相当額を含む1等米の価格である。なお、令和元年10月以降は、軽減税率の対象である米穀の包装代などの品代等は8%、運賃等は10%で算定している。

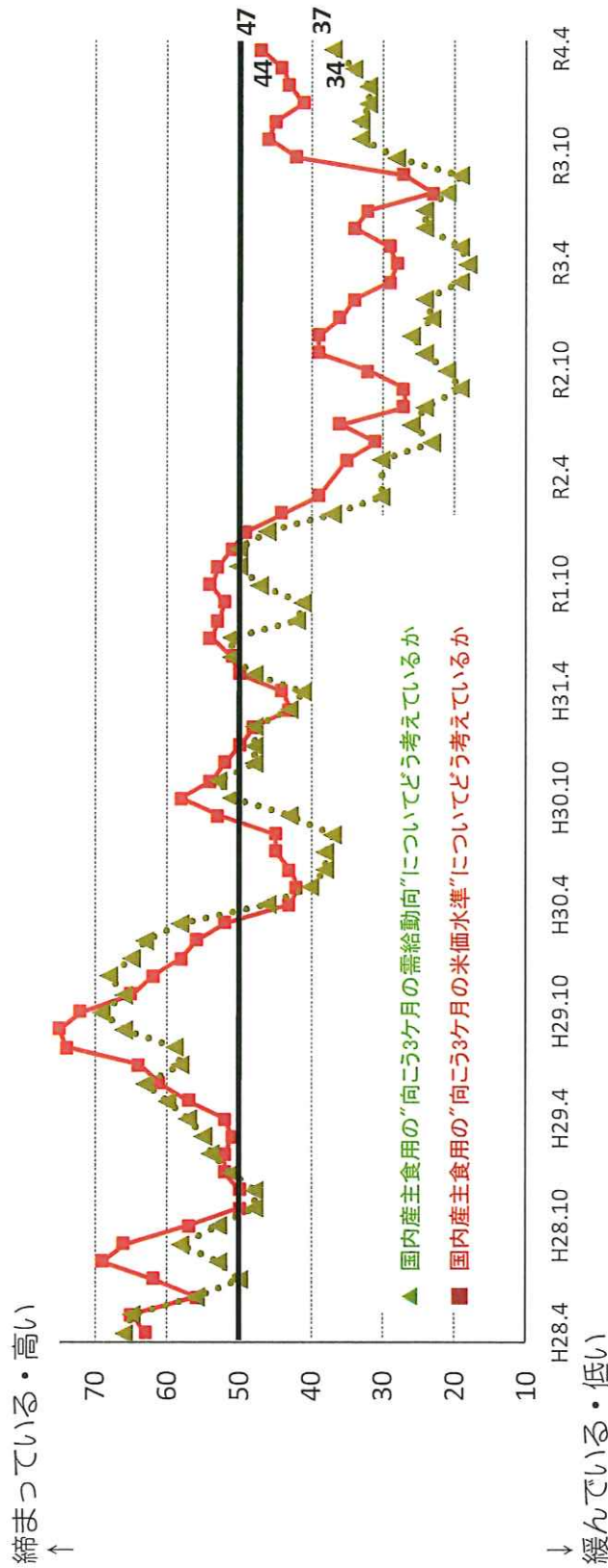
注3:「1」については、当該年産において報告対象としない産地品種銘柄又は取引数量の累計が100トン未満であり、公表を行っていないもの。

米の取引関係者の判断(令和4年4月分)

- 米穀機構の米の取引関係者の判断に関する調査(令和4年4月分)によると、
 - ① 主食用米の需給動向の向こう3ヶ月の見通し判断は、対前回調査比+3ポイントの「やや増加」
 - ② 主食用米の米価水準の向こう3ヶ月の見通し判断は、対前回調査比+3ポイントの「やや増加」となっている。

【米の取引関係者の判断(米穀機構による調査)】

主食用米の需給動向・米価水準



資料:米穀機構調査

※ 需給動向については、当月の数値が前月と比較し100に近づけば、「(将来)締まる」という見方が強くなり、反対に0に近づけば、「(将来)緩む」という見方が強くなった傾向を示します。
 ※ 米価水準については、当月の数値が前月と比較し100に近づけば、「米価水準が高くなる」という見方が強くなり、反対に0に近づけば、「米価水準が低くなる」という見方が強くなった傾向を示します。

令和3年産における作付転換の状況

- 令和3年産の主食用米の作付面積は、前年比で約6.3万ha(過去最大規模)の減少。
- そのうち飼料用米への転換が4.5万ha(全体の7割以上)を占め、麦・大豆等の品目への転換は伸び悩み。

【主食用米及び戦略作物等の作付】

	主食用米	備蓄米	戦略作物等 (万ha)							
			加工用米	新規需要米			小麦	大豆	その他 (飼料作物、そば・なたね)	
				飼料用米	WCS用稲	米粉用米				新市場 開拓用米 (輸出用米等)
2年産	136.6	3.7	4.5	7.1	4.3	0.6	0.6	9.8	8.5	10.2
			+0.2	+4.5	+0.1	+0.1	+0.1	+0.4	±0	±0
3年産	130.3	3.6	4.8	11.6	4.4	0.8	0.7	10.2	8.5	10.2

注1:加工用米及び新規需要米(飼料用米、WCS用稲、米粉用米、新市場開拓用米)は取組計画の認定面積。

注2:備蓄米は地域農業再生協議会が把握した面積。

注3:その他は飼料作物、そば、なたねの面積。

注4:麦、大豆、その他(基幹作のみ)は地方農政局等が都道府県再生協議会等に聞き取った面積。

令和4年産に向けた水田農業の取組方針

令和3年産における課題

全国で過去最大規模の作付転換を達成したものの、産地によっては次のような課題があったのではないか。

- 作付転換の検討を始める時期が遅れ、作付転換に必要な種もみ等の資材の準備が間に合わなかった。
- 生産者が取り組みやすい飼料用米への転換が多くを占め、麦や大豆などの品目の作付を増やせなかった。
- あくまで一時的な作付転換で、今後主食用米に戻ってしまう可能性もあり、産地として作付転換が定着できていない。

産地として、どのような課題があったかを
確認することが必要

令和4年産に向けた取組方針

3年産の課題を踏まえ、産地における作付転換の推進に当たっては、特に以下の点に留意が必要。

- ① 生産者がどの作物に転換するかを幅広く検討できるよう、作付転換の検討を早い時期から開始する。
- ② 麦・大豆・加工業務用野菜など定着性・収益性の高い品目や、輸出用米など将来の需要増が見込まれる品目への転換をまずは検討する。
- ③ その際、転換作物が固定化している水田については、農地の畑地化を検討する。
- ④ 中長期的にどのような産地を目指すのかを関係者間で共有し、主食用米に後戻りしないよう、着実に作付転換を進めていく計画を作る。

産地ごとにしっかり取り組むことで、需要
に応じた生産を実現

水田における作付意向について(令和4年産第1回中間的取組状況(令和4年1月末時点))①

- ・ 3年産実績との比較による各都道府県の主食用米の作付意向は、1月末時点では、減少傾向22県、前年並み25県、増加傾向0県。
- ・ 減少傾向とした県のうち、「1～3%程度減少傾向」は15県、「3～5%程度減少傾向」は3県、「5%超の減少傾向」は4県。
- ・ 戦略作物については、「前年より増加傾向」とした県の数が最も多かった品目は、飼料用米32県であり、続いて、麦24県、大豆24県、米粉用米22県、新市場開拓用米(輸出用米等)20県。
- ・ 麦・大豆を増やす意向の県が大きく増える一方で、飼料用米を増やす意向の県が3年産と同様に多いことから、引き続き、麦・大豆や野菜、子実用とうもろこし等の定着性の高い作物への転換を促していく。

【令和4年産米等の作付意向(前年産実績との比較、令和4年1月末時点)】 下段()は前年同時期の作付意向

	主食用米					戦略作物					備蓄米
	前年より増加傾向	前年並み	前年より減少傾向	加工用米	新市場開拓用米(輸出用米等)	米粉用米	飼料用米	WCS用稲(稲莖貯蔵用飼料用稲)	麦	大豆	
	0県 (0県)	25県 (28県)	22県	16県 (18県)	20県 (19県)	22県 (17県)	32県 (31県)	17県 (13県)	24県 (13県)	24県 (15県)	7県 (10県)
				21県 (17県)	11県 (9県)	18県 (22県)	13県 (9県)	26県 (25県)	12県 (22県)	13県 (23県)	18県 (12県)
				7県 (9県)	7県 (10県)	5県 (6県)	0県 (5県)	2県 (6県)	9県 (10県)	8県 (7県)	7県 (12県)

注1：令和4年産の意向(増加傾向、前年並み、減少傾向)は、3年産実績との比較。
 注2：比較している主食用米の3年産実績は、令和3年12月統計部公表の主食用作付面積。
 注3：加工用米、飼料用米、WCS用稲、米粉用米、新市場開拓用米の3年産実績は、取組計画認定面積。
 注4：麦・大豆の3年産実績は、地方農政局等が都道府県等が都道府県再生協議会等に聞き取った面積(基幹作)。
 注5：備蓄米の3年産実績は、地域農業再生協議会が把握した面積。

水田における作付意向について(令和4年産第1回中間的取組状況(令和4年1月末時点))②

都道府県	主食用米				戦略作物										備蓄米	
	3年産実績	4年産意向 (対前年実績)	加工用米		新市場開拓用米 (輸出用米等)		米粉用米		飼料用米		WCS用稲 (稲発酵飼料用稲)		麦		大豆	
			3年産実績	4年産意向 (対前年実績)	3年産実績	4年産意向 (対前年実績)	3年産実績	4年産意向 (対前年実績)	3年産実績	4年産意向 (対前年実績)	3年産実績	4年産意向 (対前年実績)	3年産実績	4年産意向 (対前年実績)	3年産実績	4年産意向 (対前年実績)
全国計	130.3万		47,641	6,748	7,632	115,744	44,248	101,760	85,434	36,435						
北海道	88,400	→	6,178	1,066	72	6,513	620	35,215	18,599	387	→					
青森	34,200	→	853	283	16	7,701	660	578	4,414	6,360	→					
岩手	46,200	→	1,196	343	71	4,683	1,939	3,310	3,764	656	→					
宮城	61,000	→	581	748	150	8,076	2,244	1,892	9,175	2,130	→					
秋田	71,400	→	8,855	296	425	3,903	1,106	170	8,139	3,723	→					
山形	54,900	→	3,876	285	112	4,628	966	73	4,413	3,728	→					
福島	54,700	→	397	38	7	10,038	1,031	273	711	5,335	→					
茨城	61,400	→	1,135	441	43	11,760	571	4,298	423	453	→					
栃木	50,600	→	1,512	93	1,099	12,482	1,769	6,866	343	1,485	→					
群馬	13,000	→	1,350	4	369	1,321	539	1,913	102	152	→					
埼玉	28,800	→	118	41	912	2,910	116	1,856	341	94	→					
千葉	48,100	→	1,499	13	84	8,190	995	477	281	922	→					
東京	120	→	-	-	-	-	-	-	-	-	→					
神奈川	2,920	→	-	-	-	10	0	4	6	-	→					
新潟	101,800	→	7,097	1,497	2,145	3,768	400	139	3,745	4,529	→					
富山	32,200	→	1,215	416	178	1,952	453	2,999	3,446	2,271	→					
石川	21,400	→	386	81	350	1,389	99	927	896	1,486	→					
福井	22,500	→	348	156	196	1,490	97	4,732	114	1,251	→					
山梨	4,760	→	76	-	12	18	15	57	98	-	→					
長野	30,400	→	615	158	18	362	215	2,385	534	233	→					
岐阜	20,700	→	616	73	48	3,009	208	3,445	378	92	→					
静岡	15,200	→	140	1	2	1,075	297	256	45	4	→					
愛知	25,800	→	421	37	53	2,086	156	5,317	95	166	→					
三重	25,900	→	197	37	91	2,043	268	6,693	316	53	→					

(注1) 主食用米の「4年産意向(対前年実績)」は、3年産実績と比較し、「→:前年並み」、「↑:1~3%程度減少傾向」、「↓:3~5%程度減少傾向」、「↘:5%超の減少傾向」で分類。
 (注2) 戦略作物及び備蓄米の「4年産意向(対前年実績)」は、3年産実績と比較し、「↑:増加傾向」、「→:前年並み」、「↓:減少傾向」で分類。
 (注3) 主食用米の「3年産実績」は、3年12月統計部公表の主食用作付面積。
 (注4) 加工用米、WCS用稲、米粉用米、飼料用米、新市場開拓用米の「3年産実績」は、取組計画認定面積。麦・大豆の「3年産実績」は、地方農政局等が都道府県再生協議会等に聞き取った面積(基幹作)。
 (注5) 備蓄米の「3年産実績」は、地域農業再生協議会が把握した面積。

水田における作付意向について(令和4年産第1回中間的取組状況(令和4年1月末時点))③

都道府県	主食用米		戦路作物										備蓄米			
	3年産実績	4年産意向 (対前年実績)	加工用米 3年産実績	加工用米 4年産意向 (対前年実績)	新市場開拓用米 (輸出用米等) 3年産実績	新市場開拓用米 (輸出用米等) 4年産意向 (対前年実績)	米粉用米		飼料用米		WCS用稲 (稲発酵飼料用稲)		麦		大豆	
							3年産実績	4年産意向 (対前年実績)	3年産実績	4年産意向 (対前年実績)	3年産実績	4年産意向 (対前年実績)	3年産実績	4年産意向 (対前年実績)	3年産実績	4年産意向 (対前年実績)
滋賀	28,900	→	644	→	203	→	58	→	1,681	→	277	→	7,462	→	468	→
京都	13,600	→	562	→	15	→	9	→	101	→	120	→	256	→	241	→
大阪	4,620	→	0	→	-	→	5	→	6	→	-	→	3	→	6	→
兵庫	34,100	→	726	→	163	→	34	→	554	→	866	→	1,751	→	1,833	→
奈良	8,400	→	19	→	0	→	30	→	34	→	40	→	62	→	25	→
和歌山	6,100	→	-	→	-	→	1	→	2	→	2	→	3	→	13	→
鳥取	12,400	→	24	→	5	→	1	→	707	→	338	→	23	→	599	→
島根	16,500	→	303	→	2	→	9	→	779	→	569	→	263	→	575	→
岡山	27,900	→	316	→	126	→	124	→	1,730	→	346	→	1,260	→	1,102	→
広島	21,700	→	320	→	21	→	124	→	424	→	585	→	309	→	232	→
山口	17,400	→	971	→	2	→	38	→	978	→	313	→	740	→	750	→
徳島	9,980	→	20	→	41	→	11	→	881	→	217	→	56	→	9	→
香川	11,300	→	38	→	1	→	7	→	139	→	142	→	1,138	→	54	→
愛媛	13,200	→	43	→	-	→	2	→	271	→	159	→	514	→	315	→
高知	11,000	→	68	→	-	→	17	→	991	→	263	→	4	→	59	→
福岡	34,100	→	228	→	8	→	327	→	2,192	→	1,657	→	1,583	→	7,830	→
佐賀	22,800	→	383	→	4	→	29	→	730	→	1,700	→	948	→	6,929	→
長崎	10,800	→	10	→	3	→	5	→	112	→	1,307	→	70	→	295	→
熊本	31,200	→	757	→	21	→	300	→	1,295	→	7,994	→	775	→	2,051	→
大分	19,400	→	136	→	-	→	15	→	1,565	→	2,432	→	579	→	1,242	→
宮崎	13,900	→	1,926	→	26	→	16	→	486	→	6,700	→	18	→	204	→
鹿児島	17,100	→	1,451	→	1	→	11	→	679	→	3,451	→	67	→	272	→
沖縄	623	→	37	→	-	→	7	→	-	→	5	→	-	→	-	→

(注1) 主食用米の「4年産意向(対前年実績)」は、3年産実績と比較し、「→:前年並み」、「↑:1~3%程度減少傾向」、「↓:3~5%程度減少傾向」、「↘:5%超の減少傾向」で分類。
(注2) 戦路作物及び備蓄米の「4年産意向(対前年実績)」は、3年産実績と比較し、「↑:増加傾向」、「→:前年並み」、「↓:減少傾向」で分類。
(注3) 主食用米の「3年産実績」は、3年12月統計部公表の主食用作付面積。
(注4) 加工用米、飼料用米、WCS用稲、米粉用米、新市場開拓用米の「3年産実績」は、取組計画認定面積。麦・大豆の「3年産実績」は、地方農政局等が都道府県再生協議会等に聞き取った面積(基幹作)。
(注5) 備蓄米の「3年産実績」は、地域農業再生協議会が把握した面積。

○ 水田活用の直接支払交付金

【令和4年度予算概算決定額 305,000 (305,000) 百万円】

<対策のポイント>

米政策改革の定着と水田フル活用の推進に向け、食料自給率・自給力の向上に資する麦、大豆、飼料用米等の戦略作物の本作化とともに、地域の特色をいかした魅力的な産地づくり、高収益作物の導入・定着等を支援します。

<政策目標>

- 麦・大豆等の作付面積を拡大 (麦30.7万ha、大豆17万ha [令和12年度まで]) ○ 実需者との結びつきのもとで、需要に応じた生産を行う産地の育成・強化
- 飼料用米、米粉用米の生産を拡大 (飼料用米：70万ト、米粉用米：13万ト [令和12年度まで]) ○ 飼料自給率の向上 (34% [令和12年度まで])

<事業の内容>

1. 戦略作物助成

水田を活用して、麦、大豆、飼料作物、WCS用稲、加工用米、飼料用米、米粉用米を生産する農業者を支援します。

2. 産地交付金

「水田収益力強化ビジョン」に基づき、地域の特色を活かした魅力的な産地づくりに向けた取組を支援します。

3. 水田農業高収益化推進助成

都道府県が策定した「水田農業高収益化推進計画」に基づき、高収益作物の導入・定着を図る取組を支援します。

4. 都道府県連携型助成

都道府県が転換作物を生産する農業者を独自に支援する場合に、農業者ごとの前年度からの転換拡大面積に応じて、都道府県の支援単価と同額 (上限：0.5万円/10a) で国が追加的に支援します。

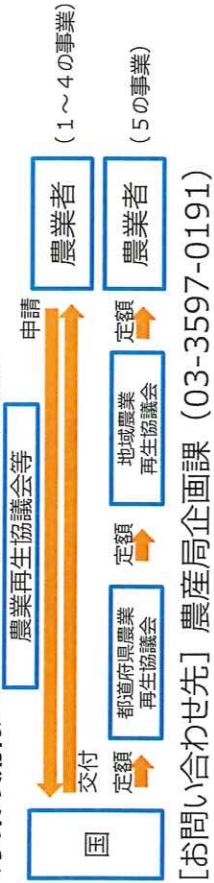
5. 水田リノベーション助成

産地と実需者との連携の下、新市場開拓用米等の低コスト生産等の取組を行う農業者を支援します。^{※7・8}

^{※7} 予算 (20億円) の範囲内で、助成対象となる地域農業再生協議会を決定

^{※8} 令和3年度補正予算「新市場開拓に向けた水田リノベーション事業」に一体的に執行

<事業の流れ> 営農計画書・交付申請書等の取りまとめ



戦略作物助成

対象作物	交付単価
麦、大豆、飼料作物 ^{※1}	3.5万円/10a ^{※2}
WCS用稲	8万円/10a
加工用米	2万円/10a
飼料用米、米粉用米	収量に応じ、 5.5万円～10.5万円/10a ^{※3}

<交付対象水田>

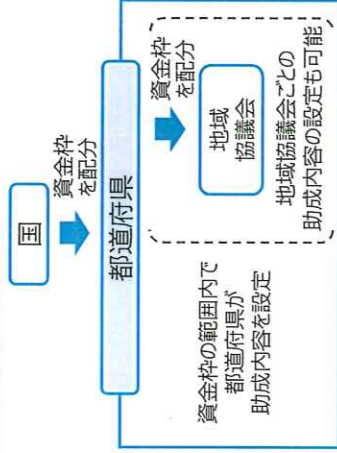
- ・たん水設備 (畦畔等) や用水路等を有しない農地は交付対象外
- ・現場の課題を検証しつつ、今後5年間 (令和4～8年度まで) で一度も水張り (水稲作付) が行われない農地は令和9年度以降交付対象としない

^{※1} : 飼料用とうもろこしを含む

^{※2} : 多年生牧草について、収穫のみを行う年は1万円/10aで支援

^{※3} : 標準単収以上の収量が確認された者には、自然災害等の場合でも、特別措置として、標準単価 (8万円/10a) で支援

産地交付金



○ 当年産の以下の取組に応じて資金枠を追加配分

取組内容	配分単価
てば・なたね、新市場開拓用米、地力増進作物 ^{※4} の作付け (基幹作のみ)	2万円/10a
新市場開拓用米の複数年契約 (3年以上の新規契約を対象に令和4年度に配分)	1万円/10a
飼料用米・米粉用米の複数年契約 (令和2年・3年からの継続分のみ)	0.6万円/10a

^{※4} : 有機栽培や高収益作物等への転換に向けた土づくりの取組

水田農業高収益化推進助成

- ① 高収益作物定着促進支援 (2万円 (3万円^{※5}) /10a x 5年間)
高収益作物の新たな導入面積に応じて支援。(②とセット)
- ② 高収益作物畑地化支援 (17.5万円/10a)
高収益作物による畑地化の取組を支援^{※6}。
- ③ 子実用とうもろこし支援 (1万円/10a)
子実用とうもろこしの作付面積に応じて支援。

^{※5} : 加工・業務用野菜等の場合

^{※6} : 令和5年度までの限定期間。その他の転換作物に係る畑地化は10.5万円/10aで支援

令和4年度水田活用の直接支払交付金等の拡充・見直し①

◆ 生産性・収益性向上に向けた取組支援の充実化

➢ 水田リノベーション事業

- ・ **予算額を大幅に拡充**※し、対象作物に**子実用とうもろこしを追加** ※生産者向け支援：270億円(R2補正)→410億円(R3補正)

対象品目	単価
新市場開拓用米、麦、大豆 高収益作物（野菜等）、子実用とうもろこし	4万円/10a
加工用米	3万円/10a

➢ 麦・大豆収益性・生産性向上プロジェクト

- ・ **麦・大豆の団地化、農業機械・技術導入**に対する支援を**強化**（要件緩和・メニュー拡充）

<支援内容>

作付けの団地化に取り組むことに加え、湿害対策技術や先進技術等を新たに導入した場合、技術に応じて最大で1.5万円/10aを支援

➢ 水田活用の直接支払交付金

- ・ **計画的な地力増進作物による土づくりの取組**に対する支援を**新たに創設**（産地交付金配分：2万円/10a）
※有機栽培や高収益作物等への転換に向けた土づくりの取組
- ・ **新市場開拓用米の複数年契約**の取組に対する支援を**新たに創設**（産地交付金配分：1万円/10a）

※令和4年産から締結した3年以上の契約

【参考】水田リノベーション事業の取組要件

- ①実需者との結び付き（産地・実需協働プランの策定）
- ②低コスト生産等の取組の実施

低コスト生産の取組（例）



直播栽培



排水対策

新市場開拓用米・加工用米

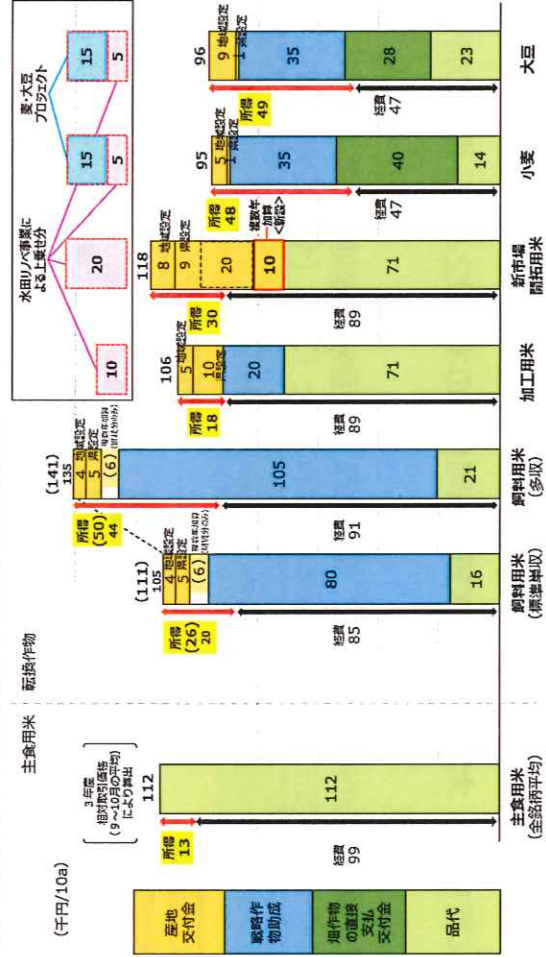
高収益作物・子実用とうもろこし



土壌診断に基づき施肥

麦・大豆

【参考】令和4年度における支援単価と所得イメージ



※統計データが一年度の前期に基づき試算
※ラウンドの関係上、計内訳が一致しない場合がある

令和4年度水田活用の直接支払交付金等の拡充・見直し②

◆ 交付対象水田の扱い

- 現行ルール※を再徹底
- 現場の課題を検証しつつ、今後5年間（R4～R8）に一度も水張りが行われない農地は交付対象水田としない方針



各地域において、畑地化すべき農地は畑地化するとともに、水田機能を有しつつ、転換作物を生産する農地については、ブロックローテーションの構築に向けて検討

※交付対象水田の現行ルール

【平成29年度からこのルールで運用中】

以下のいずれかに該当するものは、交付対象水田から除く

- 湛水設備（畦畔等）を有しない農地
- 所要の用水を供給しうる設備（用水源及び水路等）を有しない農地 等



畦畔・水路がなく、水稲の作付が困難な農地

◆ 飼料用米・米粉用米の複数年契約加算の扱い

- 複数年契約の取組率が約9割に達していることから、経過措置として、令和2年・3年からの継続分のみを対象に、令和4年は6千円/10aを支援

◆ 多年生作物（牧草）への支援の扱い

- 生産コストを踏まえ、播種を行わずに収穫を行う年の戦略作物助成の単価を見直し

播種～収穫を行う年	3.5万円/10a
収穫のみを行う年	1万円/10a

◆ 高収益作物畑地化支援の扱い

- 高収益作物による畑地化を加速させるため、単価を見直し

高収益作物	17.5万円/10a
その他作物	10.5万円/10a

※畑地化（交付対象水田から除外）した年1回限りの支援
※団地化や畑地化後5年間の継続作付等の要件を満たす必要

地力増進作物に対する支援（令和4年度当初予算～）

- 地力増進作物により土づくりを行う場合に、産地交付金のうち地域の取組に応じた配分として、**2.0万円/10aを支援（新設）**。
- 地力増進作物は少ない労働力の投入で農地の地力増進により化学肥料に頼らない生産環境の構築に寄与。
- 地力が向上した水田では、次期作から高収益作物栽培や有機農業をはじめとする環境保全型農業への転換を目指すことが可能。

地力増進作物に対する支援

地力増進作物により土づくりを行う場合に、産地交付金のうち地域の取組に応じた配分として、**地力増進作物の作付面積に応じて、2.0万円/10aを支援**。

支援ルール

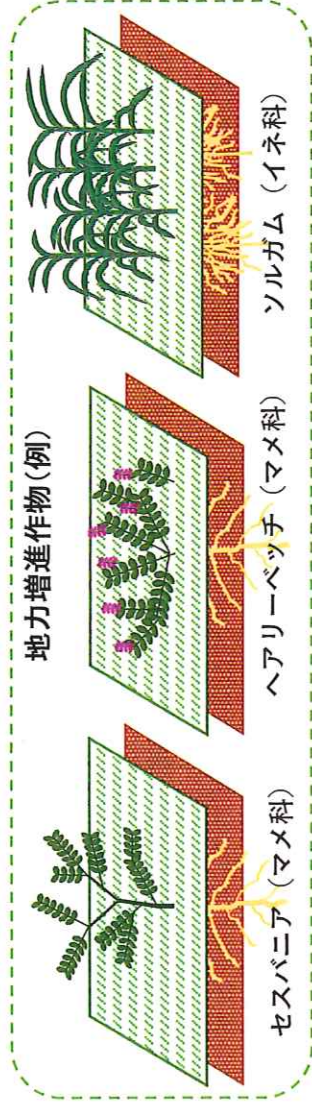
＜追加配分の要件・対象＞

- (1) 「水田収益力強化ビジョン」の「作物ごとの方針」に、
 - ① 地力増進作物の活用目的（高収益作物の導入等）
 - ② 活用目的に照らして推奨する具体的作物を位置付けること
 - (2) (1)の位置づけを行った都道府県における地域協議会ごとに見て、以下の①②のいずれか小さい方の面積
 - ① 水稲作付面積※の前年度からの減少分
 - ② 地力増進作物作付面積（基幹作）の前年度からの増加分
- ※ 水田リノベーション事業の対象米穀（新市場開拓用米、加工用米）を除く

＜使途設定の要件＞

- ◇ 地力増進作物の支援メニュー設定において以下を位置付けること
 - ① 「作物ごとの方針」に位置づけた活用目的の実現に資する要件
 - ② 同一ほ場への連続支援は原則2年間までとすること

地力増進作物の活用



翌年度以降

高収益作物栽培

水稲以外の高収益な作物栽培に転換し、収益アップを目指す。

- 【支援措置】
- ・水田農業高収益化推進助成等

化学肥料の削減

化学肥料の削減による環境配慮、省力化・コスト減を目指す。

- 【支援措置】
- ・グリーンな栽培体系への転換サポート
 - ・環境保全型農業直接支払交付金（化学肥料・化学農薬共に5割減とした場合）

有機農業

有機農業に取り組み、環境配慮と生産性を両立する持続的な農業を目指す。

- 【支援措置】
- ・環境保全型農業直接支払交付金等
 - ・有機栽培技術の習得や販路拡大の取組への支援

水田における高収益作物栽培や有機農業を始めとした環境保全型農業の拡大を後押し

ナラシ対策の運用見直し（米について事前契約を要件化）

1/6時点（案）

- ナラシ対策において、具体的な出荷・販売予定に従って計画的に生産された主食用米を対象とすることで、需要に応じた米作りを後押し。
- 具体的には、米について、R4年産から、農業者が事前に集出荷業者（JA等）と出荷契約を結んだもの等をナラシの補てん対象とする。

〈ナラシ対策の対象となる米：主食用米〉

現行

- ① 生産者から集出荷業者へのお荷又は販売
 - ・ 翌年3月末までに出荷又は販売されたもの
- ② 生産者から実需者・卸への直接販売
 - ・ 翌年3月末までに販売契約を結んだもの



見直し後（事前契約の要件化）

- ① 生産者から集出荷業者へのお荷又は販売
 - ・ 6月末までに出荷契約又は販売契約を結び、翌年3月末までに出荷又は販売されたもの
- ② 生産者から実需者・卸への直接販売
 - ・ 6月末までに前年の実績等を基に販売計画を作成し、翌年3月末までに販売契約を結んだもの

需要に応じた生産を緩やかに担保

事前契約を要件化することで、需要に応じた米生産を強力に推進

※ ナラシ対策の対象農産物のうち、麦と大豆は、既に播種前契約に基づき生産されたもののみが補てんの対象。

令和4年産備蓄米の政府買入入札の結果

	買入 予定数量 (優先枠) ①	第1回入札(1/25)		第2回入札(2/17)		第3回入札(3/8)		第4回入札(3/29)		①-②- ③-④- ⑤
		入札 数量	落札 数量 ②	入札 数量	落札 数量 ③	入札 数量	落札 数量 ④	入札 数量	落札 数量 ⑤	
北海道	2,162	2,162	2,162							0
青森	27,259	35,014	27,259							0
岩手	3,488	5,039	3,488							0
宮城	11,600	13,668	11,600							0
秋田	21,572	29,080	21,572							0
山形	21,291	26,721	21,291							0
福島	27,050	35,987	27,050							0
茨城	1,103	2,650	1,103							0
栃木	7,602	13,990	7,602							0
群馬	555	2,289	555							0
埼玉	463	1,475	463							0
千葉	3,985	13,190	3,985							0
東京										
神奈川										
新潟	25,149	29,229	25,149							0
富山	12,197	12,531	12,197							0
石川	7,849	10,470	7,849							0
福井	4,076	7,504	4,076							0
山梨										0
長野	1,446	1,546	1,346	100	100					0
岐阜	435	100	100	670	335					0
静岡	20			40	20					0
愛知	846	846	846							0
三重	270	370	270							0
滋賀	1,342	1,361	1,161	401	181					0
京都										
大阪										
兵庫										
奈良										
和歌山										
鳥取	400	100	100	300	300					0
島根	130	130	130							0
岡山	977	1,311	977							0
広島	20	20	0	20	20					0
山口										
徳島	1,182	1,360	1,182							0
香川										
愛媛										
高知	10	10	10							0
福岡	264					71	71			193
佐賀	220			100	100	120	120			0
長崎	10									10
熊本	247	594	247							0
大分	94	94	94							0
宮崎										
鹿児島										
優先枠計①	185,314	248,841	183,864	1,631	1,056	191	191	0	0	203
一般枠②	21,686	66,203	21,686					2,443	203	0
合計(①+②)	207,000	315,044	205,550	1,631	1,056	191	191	2,443	203	0